

保護者の皆様へ

自分らしくゆっくり学ぼう

～将来の社会的自立に向けて～

お子さんが学校に通えなくなった時、どのように接したらよいのか、不安や焦りを感じることもあるでしょう。また、どこに相談したらよいのか、休ませた方がよいのか、登校を後押しした方がよいかなど、判断に迷うこともあると思います。

このリーフレットでは、皆様のご参考となるよう「不登校の考え方、子どもの感じ方、子どもへの接し方」、「支援の基本的な姿勢」、「学校内外の学びの場」などについて記載しています。

お読みいただいた方の不安や焦りが少しでも和らぎ、それが子どもたちの成長に向けた一助となりましたら幸いです。

令和3年11月
神奈川県教育委員会

不登校の考え方、子どもの感じ方、子どもへの接し方

不登校をどう考えるか

不登校とは、多様な要因・背景により結果として登校していない状態になっているということであり、学校に行けないことは、決して「問題行動」ではありません。不登校は、「甘え」や「怠け」でも「弱いから」でもなく、どの子にも起こり得ることです。

子どもはどう感じている？

「苦手なことがある」「人間関係が不安」「勉強がわからない」「特に理由はない」「学校に行きたいけど行けない」「今は学校に行きたくない」など一人ひとりの状況は様々です。不登校になっている本人でも、はっきりとした原因は、わからないことがあります。

そして、不登校の状態にある子どもの多くは、外からそうは見えなくても、「なぜ登校できないか自分でもわからない」「行かなきゃいけないと頭では思うけど、体が動かない」状況にあり、心の中では、「先が見えない」「きっと自分はダメなんだろう」といった、不安や苦しさ、引け目、恥ずかしさ、焦り、罪悪感などの様々な気持ちが渦巻いています。

どう接すればよいか？

ありのままを受けとめる

不登校の原因探しに固執しないで、今の子どもをそのまま受けとめることが大切です。

大人との価値観の違いがあったり、思春期特有の不安や反発などがみられたりすることがあり、子どもの状態をそのまま受けとめることは簡単なことではありません。

大人ほど経験がないため、視野が狭く、些細なことも本当につらいと感じることがあります。周りの大人たちが、一人ひとりに応じた支援をみつけるのは大変なことです。

具体的な支援方法については、学校、教育支援センター、フリースクールやフリースペース、親の会など、実際に支援している方や不登校を経験された方などからヒントを得られることがあります。

子どもに「寄り添う」

- あなたのことを知りたい
- あなたの気持ちを受けとめたい
- あなたのよさや可能性を見つけたい
- あなたと一緒に課題を克服していきたい

一人ひとりの状況に応じた支援が大切です。子どもが休んでいる時期は、心身の休養であったり、自分を見つめ直すなど、積極的な意味をもっていたりすることがあります。

自分らしくゆっくり学ぼうとする子どもに寄り添い、共感的理解と受容の姿勢をもち、子どもの自己肯定感を高めることが大切です。

支援の基本的姿勢

一人で抱え込まない

教育は、家庭と学校だけに課された役割ではありません。フリースクール等の民間の支援団体、医療・福祉など、信頼できる様々な機関があります。社会全体で手をつなぎ共に支援を考えていきましょう。

社会的自立に向けて

登校という目先の結果のみを目標にせず、子どもの意思を十分に尊重しつつ、子どもが自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することをめざします。

周囲の大人との信頼関係を構築していく過程が、社会性や人間性の伸長につながります。結果として、子どもの社会的自立につながることを期待されます。

子どもと保護者を支援する相談機関など

今はこんな
進路先が
あります。

学校内外には、様々な「学びの場」があります。

学校の中にも、こんな
「学びの場」があります。

まずは、相談してください。

高等学校（全日制）
学年制：普通科、
クリエイティブスクール、
インクルーシブ教育実践推進校
単位制：普通科、
フレキシブルスクール
定時制、通信制
高等専修学校・各種学校、
中学校夜間学級などがあります。

進路

学校

通級指導教室、保健室、学習ルーム、相談室などがあります。子どもにとって安心できる居場所があることが大切です。

「自分らしくゆっくり学ぼう」
「『どうにかなる』『どうにでもできる』と思えました」

校長、教頭、学級担任、養護教諭、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー（心理の専門家）、スクールソーシャルワーカー（福祉の専門家）、相談員など相談できるスタッフは様々です。

教育支援センター

市町村教育委員会が設置しています。子どもたちの社会的自立の力を高めるだけでなく、学習や相談など様々な支援を行っています。

「学習支援により、子どもが自信をもってきました」「継続的に通級することで生活のリズムが整ってきました」

子ども 保護者

県・市町村教育委員会

学校やフリースクール等と連携して不登校相談会・進路相談説明会などの実施。不登校や就学等の相談、情報提供などを行っています。

「相談機関や学校について知ることができました」「様々な進路について知ることができ、不安が和らぎました」

フリースクール等

フリースクールやフリースペース等の民間の支援団体・施設等は、子どもたちの個性を大切にして、社会的自立を支援しています。

「子どもに合っている居場所がみつかりました」「フリースクールで過ごすことで、子どもに自信ができてきました」

相談機関

県立総合教育センター、かながわ子ども・若者総合相談センター（ひきこもり地域支援センター）、県西部青少年サポート相談室などの相談機関があります。

「どこに相談すればよいかわることができました」「ひきこもりの相談機関を知ることができました」

不登校に関する情報サイト、相談窓口等

【県のホームページ等による情報提供】（県教育委員会）

学校内外の学びの場、不登校支援などの資料(県教育委員会作成)を ホームページに掲載しています。

県教育委員会は、平成18年から県学校・フリースクール等連携協議会を設置し、不登校支援等についてフリースクール等との連携を重視して、協働による相談会等を実施しています。

学校や市町村教育委員会、フリースクールやフリースペース等と連携し、不登校対策・支援の充実を図っています。

不登校相談会、相談先、関連資料など

◆ホームページ「不登校でお悩みの児童・生徒、保護者のみなさんへ」

- ・不登校相談会（6月、2月）、不登校相談会・進路情報説明会（9月から10月）、フリースクール等見学会（9月から11月）などの情報
- ・相談先の情報（県・市町村の施設・教育支援センター・県立足柄ふれあいの村）、資料など

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/hutoukou.html>



フリースクールやフリースペース等の情報

◆「神奈川県学校・フリースクール等連携協議会と連携しているフリースクール等の情報」

- ・各団体の連絡先、活動のコンセプト、特色、費用などを掲載
（具体的な内容については直接各団体にお問い合わせください）

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/hutoukou/huri-suku-ru.html>



登校、学びの場などに関する情報

◆学校と地域の学び応援サイト「キミイロ」

- ・県教育委員会とNPO団体（鎌倉あそび基地）とが協働により作成したウェブサイトです。登校、学びの場などに関する情報を提供しています。（外部サイトにリンク）

<https://kimiiro.education/>



【電話による相談】（県立総合教育センター）

◆不登校ほっとライン（おおよそ3歳から18歳までの子どもや、その保護者が対象）

〔相談専用電話〕（0466）81-0185

〔利用時間〕 平日 8:30~21:00/土・日・祝休日 8:30~17:15（年末年始を除く）

【ひきこもり、不登校等についての相談】（県立青少年センター）

◆子ども・若者、ひきこもり等に関する相談機関・支援機関の紹介ホームページ

子ども・若者に関連する様々な課題についての相談などの支援事業を行う団体、機関などを紹介

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ch3/cnt/soudan/02_kikan/index.html



問合せ先

神奈川県教育委員会 教育局

支援部 子ども教育支援課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話 (045)210-8292